8-1 一般地域（商業系）の色彩基準

駅周辺の商業地	高さ 20m 以上又は延べ面積 3,000 ㎡以上
幹線道路沿道	高さ 20m 以上又は延べ面積 3,000 ㎡以上

基本的な方針

鉄道駅の周辺は、身近な商業活動の場として、地域ににぎわいをもたらしています。

また、幹線道路は国府のあった歴史から、幅員が広く街路樹が大きい風格のある街道が多くみられます。

こうした地域では、以下のような方針に基づき景観づくりを行います。

・低層部のにぎわいを連続させる景観づくり

・周囲のまちの特性を生かし、まち並みに調和した景観づくり

・都市の顔として、風格のある景観づくり

色彩の現況

市内の鉄道駅、幹線道路の周辺では、商業や業務ビルに加え、マンションなどが立地しています。色相は暖色系のＹＲ(黄赤系)、Ｙ（黄系）などが中心となっています。また、高明度で、中彩度の色彩がやや多く、にぎわいのある景観となっていますが雑然とならないよう配慮することが望まれます。

色彩景観形成の考え方

建物や工作物の色彩は、地域の景観特性を把握し、周辺のまち並みとの調和を考慮した色彩を基本とします。

外壁の基本色は、落ち着きが感じられ、緑の存在や周辺のまち並み景観を妨げないように配慮し、中彩度までの色彩を基本とします。

にぎわいのある景観とするため、建物に個性を与え、外壁各面の５％以下で使用できるアクセント色は制限の対象外としますが、主に建物の中低層部で用いることとします。

特に、街路樹などの樹木に調和するとともに、暖色系を基本としたにぎわいと活力が感じられる色彩を外壁基本色の推奨色とします。

中河原駅周辺の景観

甲州街道沿いの景観

色彩基準による使用可能色の範囲

外壁基本色の推奨色

2.5YR7.0/2.0
[12-70D]

2.5YR6.0/2.0
[12-60D]

5YR7.0/2.0
[15-70D]

5YR7.0/4.0
[15-70H]

7.5YR8.0/3.0
[17-80F]

7.5YR6.0/4.0
[17-60H]

10YR8.0/3.0
[19-80F]

10YR7.0/3.0
[19-70F]

10YR7.5/2.0
[19-75D]

10YR6.0/4.0
[19-60H]

2.5Y8.0/2.0
[22-80D]

2.5Y7.5/3.0
[22-75F]

2.5Y7.0/2.0
[22-70D]

2.5Y7.0/4.0
[22-70H]

記号はマンセル値、[] 内は日本塗料工業会標準色見本帳番号を表しています。

凡 例

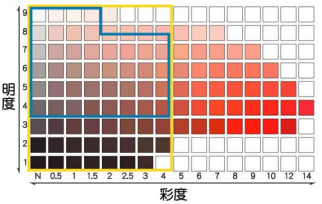
外壁基本色の使用可能範囲
（外壁の4／5はこの範囲から選択）

強調色（外壁の1／5以下）
の使用可能範囲※

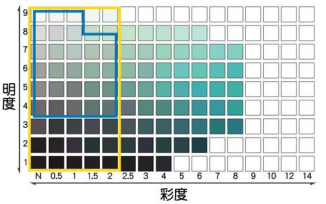
屋根色（勾配屋根）については、屋根面の立ち上がりを外壁面に含めて面積割合を計算します。

※
但し、強調色については良好な景観の形成に貢献するなど、本計画の実現に資する色彩については、景観審議会の意見を聴取した上で、この基準によらないことができます。

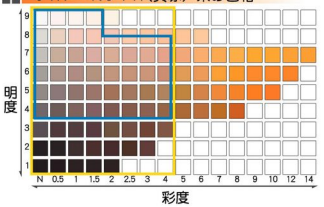
R（赤）の色相



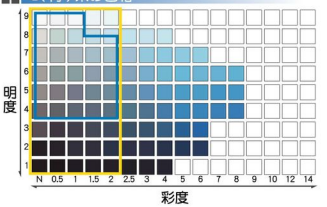
BG（青緑）系の色相



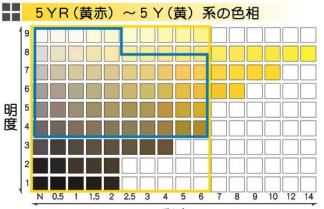
0YR～4.9YR（黄赤）系の色相



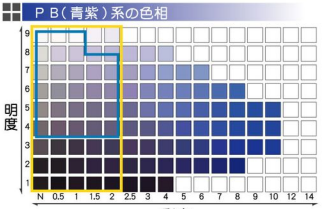
B（青）系の色相



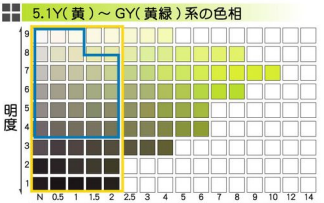
5YR（黄赤）～5Y（黄）系の色相



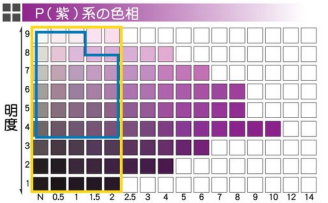
PB（青紫）系の色相



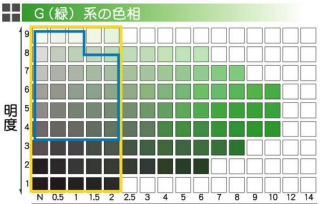
5.1Y（黄）～GY（黄緑）系の色相



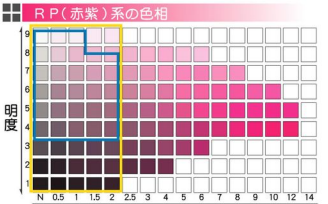
P（紫）系の色相



G（緑）系の色相



RP（赤紫）系の色相



基準の適用部位	色相	明度	彩度
外壁基本色	0R～4．9YR	4以上8．5未満の場合	4以下
		8．5以上の場合	1．5以下
	5．0YR～5．0Y	4以上8．5未満の場合	6以下
		8．5以上の場合	2以下
	その他	4以上8．5未満の場合	2以下
		8．5以上の場合	1以下
強調色※	0R～4．9YR	—	4以下
	5．0YR～5．0Y		6以下
	その他		2以下

8-2 一般地域（住宅地系）の色彩基準

旧街道沿道	高さ 20m 以上又は延べ面積 3,000 ㎡以上
その他（住宅地等）	高さ 20m 以上又は延べ面積 3,000 ㎡以上

基本的な方針

市内には鎮守の森や屋敷林などが残っており、旧甲州街道や人見街道をはじめとする歴史を感じさせる街道もあります。また、住宅地でも公園や大規模施設の周囲には豊かな緑がみられます。

こうした地域では、以下のような方針に基づき景観づくりを行います。

・落ち着きとゆとりのある景観づくり
・より良い住環境をめざした、緑の多い景観づくり
・地域の歴史を生かし、周囲のまち並みに調和した景観づくり

色彩の現況

市内の住宅地では、戸建て住宅に加え、マンションが増えてきています。また、住宅地の近くでは企業や教育施設などの大規模な施設も立地し、景観を構成しています。

色相は暖色系のＹ（黄系）やＹＲ（黄赤系）が中心となっています。また、明度は中～高明度が基本となっており、暖かみのある景観となっています。

彩度は低彩度の色彩が最も多く、その他に無彩色や中彩度の色彩が見られます。

色彩景観形成の考え方

建物や工作物の色彩は、地域の景観特性を把握し、周辺の街並みや自然との調和を考慮した色彩を基本とします。

外壁の基本色は、落ち着きが感じられ、緑の存在や周辺のまち並み景観を妨げないように配慮し、中彩度までの色彩を基本とします。

外壁各面の５％以下で使用できるアクセント色についても中彩度までとし、使用する場合は主に建物の中低層部で用いることとします。

特に、落ち着きが感じられるとともに、住宅地の緑にも調和する中明度、中彩度を主とした色彩を外壁基本色の推奨色とします。

一本木通り（浅間町）の景観

紅葉丘三丁目の景観

色彩基準による使用可能色の範囲

外壁基本色の推奨色

5YR7.0/2.0 [15-70D]	5YR7.0/4.0 [15-70H]
5YR6.0/2.0 [15-60D]	5YR6.0/3.0 [15-60F]
7.5YR8.0/3.0 [17-80F]	7.5YR7.0/4.0 [17-70H]
7.5YR6.0/4.0 [17-60H]	7.5YR5.0/2.0 [17-50D]
10YR8.0/3.0 [19-80F]	10YR6.0/4.0 [19-60H]
10YR7.0/3.0 [19-70F]	10YR5.0/4.0 [19-50H]
2.5Y8.5/2.0 [22-85D]	2.5Y7.0/4.0 [22-70H]

記号はマンセル値．[ ] 内は日本塗料工業会標準色見本帳番号を表しています。

凡例

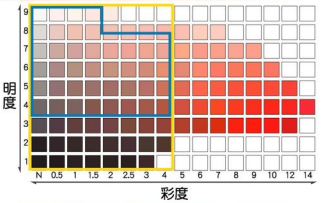
外壁基本色の使用可能範囲
（外壁の4／5はこの範囲から選択）

強調色（外壁の1／5以下）および、アクセント色（外壁の1／20以下）※の使用可能範囲

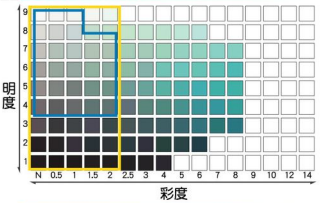
屋根色（勾配屋根）については、屋根面の立ち上がりを外壁面に含めて面積割合を計算します。

※
但し、アクセント色については良好な景観の形成に貢献するなど、本計画の実現に資する色彩については、景観審議会の意見を聴取した上で、この基準によらないことができます。

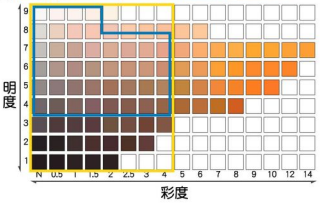
R（赤）の色相



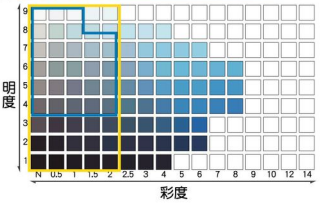
BG（青緑）系の色相



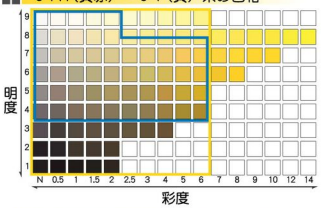
0YR～4.9YR（黄赤）系の色相



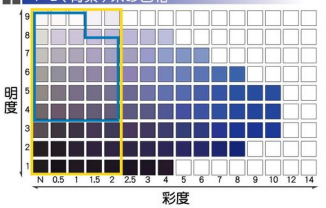
B（青）系の色相



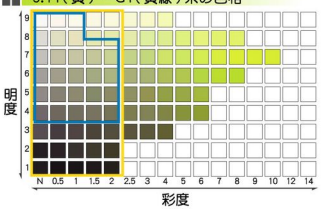
5YR（黄赤）～5Y（黄）系の色相



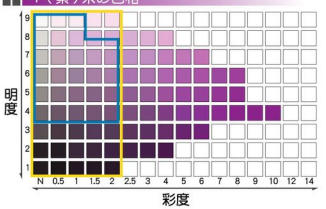
PB（青紫）系の色相



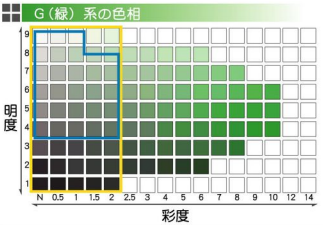
5.1Y（黄）～GY（黄緑）系の色相



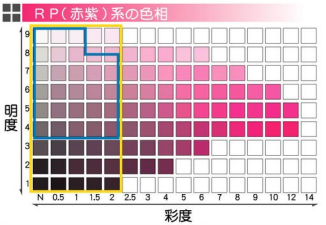
P（紫）系の色相



G（緑）系の色相



RP（赤紫）系の色相



基準の適用部位	色相	明度	彩度
外壁基本色	0R～4．9YR	4以上8．5未満の場合	4以下
		8．5以上の場合	1．5以下
	5．0YR～5．0Y	4以上8．5未満の場合	6以下
		8．5以上の場合	2以下
	その他	4以上8．5未満の場合	2以下
		8．5以上の場合	1以下
強調色およびアクセント色※	0R～4．9YR	—	4以下
	5．0YR～5．0Y		6以下
	その他		2以下

9 大規模開発事業の色彩基準

・開発区域の面積が 5,000 平方メートル以上のもの
・100 戸以上の集合住宅又は、延べ面積が 10,000 平方メートル以上の建築物
（但し、都市開発諸制度を活用する建築物などで東京都が事前協議を実施するもの※については、東京都の色彩基準による。）
低層部には、にぎわいや潤いを創出する空間を積極的に整備していく観点から、色彩の誘導範囲は、原則として、高さ 10m 又は３階以上とします。

基本的な方針

大規模な建築物等の色彩は、景観に大きな影響を与えるため、外壁の基本色は府中市の景観の骨格となっている自然に馴染む色彩とし、強調色についても落ち着きが感じられる色彩とします。

色彩の現況

色相は暖色系のＹＲ（黄赤系）、Ｙ（黄系）などが中心となっています。また、明度は中～高明度が基本となっています。

彩度は中～低彩度が多く、柔らかく落ち着いた色彩が多く使われています。

色彩景観形成の考え方

外壁の基本色は、自然に良く馴染む暖色系を中心とし、景観の背景として柔らかく落ち着いた景観とするために、明度が極端に低い暗い色彩や、彩度の高い鮮やかすぎる色彩の使用を避けるようにします。

また、強調色については、落ち着きが感じられる中彩度までの色彩とし、アクセントとして用いる色彩については、主に建物中低層部で用いることとします。

特に、季節の変化を感じさせる自然と調和し、景観の背景となる高明度、低彩度の色彩を外壁基本色の推奨色とします。

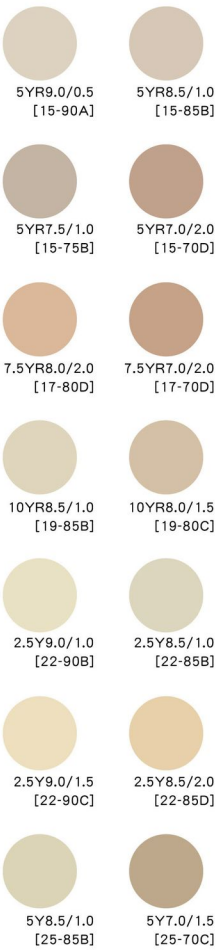
高さ 10mおよび３階未満の建物や工作物についても、基本色の基準を原則としますが、良好な景観の形成に貢献するなど、本計画の実現に資する色彩については、景観審議会の意見を聴取した上で、この基準によらないことができます。

府中インテリジェントパーク（日鋼町）の景観

※
・都市計画法第８条第１項第３号の高度利用地区（市街地再開発事業を伴うものに限る）
・都市計画法第８条第１項第４号の特定街区
・都市計画法第８条第１項第４号の２の都市再生特別地区
・都市計画法第１２条第１項第４号の市街地再開発事業
・都市計画法第１２条の５第３項の再開発等促進区を定める地区計画
・国分寺崖線景観形成地区内で行われるＰＦＩ法に基づく事業及びＰＦＩ的手法に基づく事業
・鉄道駅構内等開発計画

色彩基準による使用可能色の範囲

■外壁基本色の推奨色



記号はマンセル値，[ ] 内は日本塗料工業会標準色見本帳番号を表しています。

凡 例

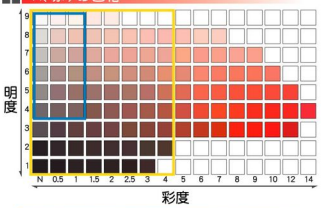
外壁基本色の使用可能範囲
（外壁の4／5はこの範囲から選択）

強調色（外壁の1／5以下）および、アクセント色（外壁の1／20以下）※の使用可能範囲

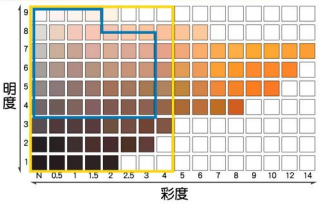
屋根色（勾配屋根）については、屋根面の立ち上がりを外壁面に含めて面積割合を計算します。

※
但し、アクセント色については良好な景観の形成に貢献するなど、本計画の実現に資する色彩については、景観審議会の意見を聴取した上で、この基準によらないことができます。

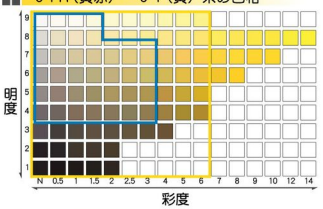
R（赤）の色相



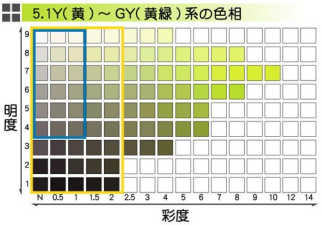
０YR～４．９ＹＲ（黄赤）系の色相



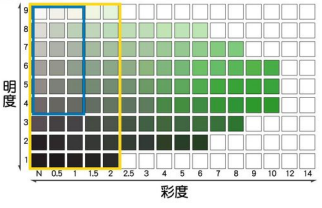
５YR（黄赤）～５Ｙ（黄）系の色相



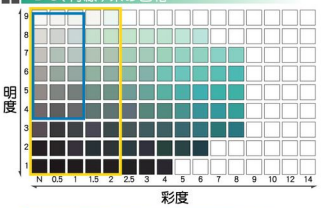
5.1Y（黄）～ GY（黄緑）系の色相



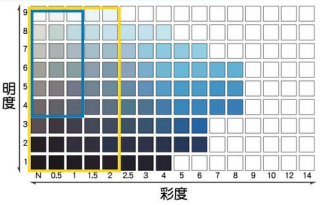
G（緑）系の色相



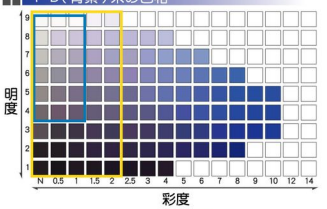
ＢＧ（青緑）系の色相



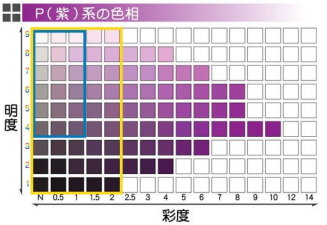
B（青）系の色相



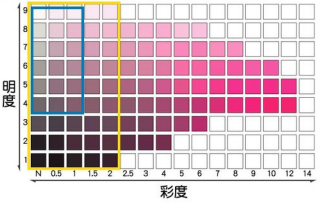
ＰＢ（青紫）系の色相



P（紫）系の色相



ＲＰ（赤紫）系の色相



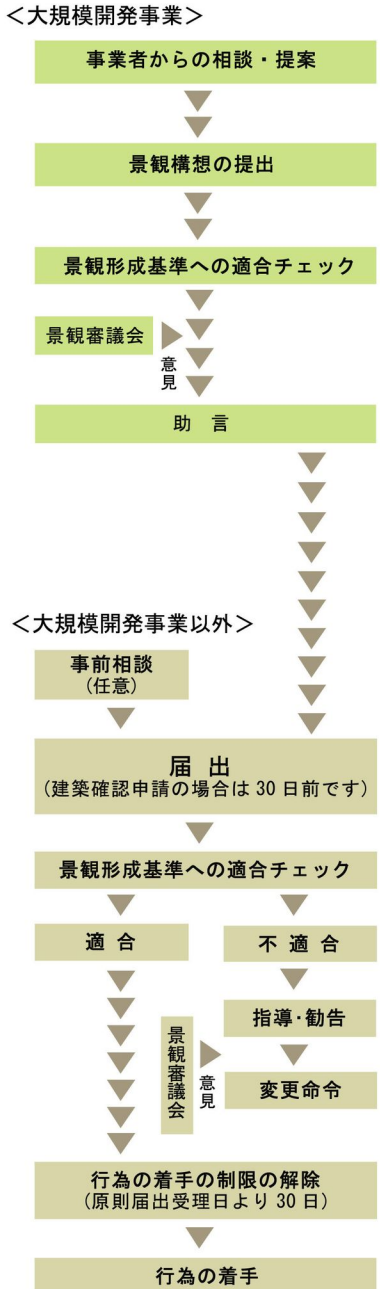
基準の適用部位	色相	明度	彩度
外壁基本色	０ＹＲ～５．０Ｙ	４以上８．５未満の場合	３以下
		８．５以上の場合	１．５以下
	その他	４以上	１以下
強調色および アクセント色※	０Ｒ～４．９ＹＲ	—	４以下
	５．０ＹＲ～５．０Ｙ		６以下
	その他		２以下

10 届出と事前協議の進め方

大規模開発事業の事前協議

景観の形成に与える影響の大きい大規模開発事業については、右図のとおり、府中市景観条例に基づく景観構想の事前協議を経た上で、景観法に基づく届出などの手続きを進めます。

景観形成基準への適合チェックの項目のひとつとして本書に示した色彩基準が用いられます。



景観計画区域内での届出

景観計画で定められた行為、規模に該当する場合は、景観法及び府中市景観条例に基づく届出が必要になります。

届出から行為の着手に至るまでの流れは右図のとおりです。

景観形成基準への適合チェックの項目のひとつとして本書に示した色彩基準が用いられます。